

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490700012		
法人名	株式会社 優美		
事業所名	グループホーム 優美		
所在地	大分県津久見市網代字西ノ下95番21		
自己評価作成日	令和3年10月29日	評価結果市町村受理日	令和3年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4490700012-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府番館 1F
訪問調査日	令和3年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「笑って・なごんで・つながって」のもと「その人らしさ」「小さな気づきの実行」を大切に、利用者一人一人にきめ細かいケアを実践してしております。認知症の進行を予防するために、本人の能力が維持できるよう、家事全般・脳活・運動と認知症の進行予防に取り組んでいます。食事は地元の野菜を取り入れ、利用者様の嗜好・食事形態に配慮した献立となっております。海岸沿いに立つホームなので、災害に対する意識は高く、自主避難訓練を積極的におこなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念・基本方針を共有・実践する為に、職員は一日の目標を作成し、職員がみんなで同じ方向を向き支援ができるよう介護の統一を目指し、取り組んでいます。開設時より地域との関係構築に力を入れ、地域行事の参加や非常災害時における自治会との相互協力や連携が事業所の防災意識の高さに表れており、全職員で真摯に取り組まれています。高齢化・重度化する利用者一人ひとりに寄り添い、その時々思いや行動を受け入れ、安全な暮らしを支援しています。また、レクリエーションや行事等も利用者個々の能力を活かし、機能訓練・食事の準備や掃除等能力に合わせできることを支援することで認知症の進行予防にも繋がっています。家庭的な雰囲気を大事に、利用者の生活リズムを尊重し、規則正しい生活の中で柔軟な対応ができるよう全職員で話し合い、工夫し支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申送りにて理念を復唱し、利用者様への言葉かけや、生活の様子が理念に沿っているか、共有している。	理念及び基本方針を掲示し、意識付けやミーティングでの復唱により共有化しています。職員は一日の目標を設け、日々の実践に繋げており、会議で振り返りや話し合いの機会を持ち、理念の共有と実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であるが、近くにある郵便局・新聞配達等来訪時、近隣の話をする事で、馴染の関係が保てるよう声掛け交流している。	自治会より「敬老の日」の御祝いを頂き、自治会の掲示板に広報誌「えがお便」を掲示したり、地域の防災訓練に職員の参加等、地域との関係構築に取り組まれています。また、地域の情報は運営推進会議で把握し地域に出向いた時に更に把握するよう工夫をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関先にパンフレットを設置したりポスター掲示を行っている。施設見学の際は認知症の症状等について説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の年齢分布・平均介護度や近況の生活の様子・認知症の心理・行動障害等の事例や対応の仕方等は、コロナ禍にて2か月に1度文書報告している。意見や各種関係者からのお知らせは返信していただいている。また資料は職員回覧している。	今年度はコロナ禍により会議を通常開催から書類審議として実施しています。書面には近況報告、事故報告(ヒヤリハット)等を載せ、メンバーとの情報交換を行い交流を図っています。話し合った内容等は議事録にし、各メンバーに送付し透明性のある運営に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、来訪回数は減少した。メール等にて情報があれば連絡が来てる。	運営上、相談事が生じた際には行政の担当者へ連絡を入れ相談やアドバイスを頂いています。コロナの感染予防対策等のメールや市の回覧BOXに連絡事項の書類をとりに行った際に、担当者とお話をする等協力関係を築いています。施設部会(G・H)の集まりもあり、情報交換や知恵を拝借しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1度開催し検討している。不適切ケアについてのマニュアルすることが出来た。また、各ユニットで問題点を考え、月目標を設定し、委員会にて反省・評価している。	身体拘束廃止及び虐待防止について、委員会を定期的開催し、身体拘束をしないケアや言葉による拘束(スピーチロック)の禁止について理解を深めています。また、各ユニットで問題点を考え、管理者が職員に適宜声掛けし、注意喚起を続けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と高齢者虐待は同じ土俵との認識をし、共に委員会で話し合いを行っている。内出血は業務日誌に発見者が記入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様や、家族からの質問等活用の事例を通して、各種関係者にアドバイスを頂き、円滑に支援できるよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、おもたるキーパーソンへ説明を行っている。特に説明同意が重要な項目は再説明を行う。最後に必ず質問がないかの確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された時は、ホームに対しての苦情やわからないことが無いかな話をするよう心がけている。要望や意見苦情があれば業務日誌へ記入し対応策等を職員で共有している。	職員は、利用者との対話が大切であると意識付けして、傾聴を通じ利用者の思い・意見の理解を深めています。家族には電話で話しを聞く機会を作り、出された意見は運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	雇用や労務に関して不平不満がないか、面談等で確認している。職員から改善点や不平不満が出た場合は、意見を電話や稟議等で本社へ伝え指示を仰いでいる。	管理者は職員が意見を発言し易い雰囲気を中心掛け、会議では職員間の協議の結果を吸い上げ、運営改善に反映しています。年2回の個別面談を含め、コロナ禍での職員の精神的負担軽減に全員で協力し業務改善に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事評価制度があり、評価に基づき賃金へ反映する仕組みが整っている。就業規則に従いの昇給や永年表彰等対応がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マンパワー不足で、外部研修を行うことはできて無いが、日々のケアの中で切磋琢磨を行い主任やリーダーから指導してもらおう場面を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて部会や訪問が減少し交流を保つことが困難。電話やメール等での情報交換も減少した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント・24時間シートの活用や、ご本人様からの情報をもとに、日ごろの言動の中から不安をとりのぞけるよう、要望に寄り添い会話を大切にし安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや意向が聞き出せるよう、見学や入所時に家族の話に耳を傾け、今までの労いとこれから始まる生活への不安がないか、丁寧に聞き取りを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や面談時に、昔の生活状況を聞き取り、これからホームでどう過ごしていきたいか、意向の確認を行う。また、福祉用具や他サービスとの各種連携・家族支援の継続を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、ご本人のできる事を中心に取り組んで頂き、職員と共に助け合える馴染の関係を築けるよう取り組んでいる。また、他者調和を行い、人間関係のトラブルの早期発見にも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られる場合は、コロナ禍であるが、窓越しの面会を実施している。職員が中継ぎとなり、家族とのコミュニケーションを調和している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人からの電話は、他者に気遣うことなく話せるよう、居室へ誘導し、お話しいただいている。	家族等と会うことが難しい状況に、日常の写真を多く掲載した「お便り」を配布することで、絆が途切れないよう支援しています。昔話や昔の歌を口ずさむ等回想しながら馴染みの関係性を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の身体・精神状態を申し送り等で共有しながら、その時々に合わせて人間関係の調和に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出先でお会いする場合も多く、こちらから声をかけ、当時の話をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、理解力のある利用者様には、会話を中心に現状の満足度や希望する生活・要望をお聞いている。困難な場合は保人様の状況をお話し家族に相談し把握に努めている。	利用者に寄り添いながら話しを傾聴し、困難な場合は家族の思いに耳を傾け、不安なことや要望等を把握しています。職員は気付きを大切に、情報を共有し、プランに反映するとともに介護の統一に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、昔馴染の生活を本人やご家族へお聞きしアセスメントを行っている。他事業所からの情報提供を、現在の状況と過去の状況を調和し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方が、単調にならないように、運動やアクティビティに取り組んでいる。申送りを徹底することで、心身状態や現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当職員に課題や問題点・支援内容等を事前に情報提供してもらい、サービス担当者会議にて、支援内容や方向性等検討し、プラン作成を行う。3か月ごとにモニタリングをお行う。	利用者や家族（現在は電話での聞き取り）の意向をもとに、3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎にアセスメント、職員の意見等をもとに継続可否を見極め、定期的にプランを作成しています。利用者の思いや家族の意向・機能訓練等プランに反映させて安心して生活できるよう支援されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケア記録に実行した事や結果を記録している。申し送りにてスタッフ間で情報を共有。必要に応じプラン変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍にて規制も多いが、利用者の希望をかなえる委員会を発足させ、行事等で施設内で反映できるよう取り組んでいる。日々の生活の中で個別の問題点が上がれば、解決している。必要時は家族へ報告し意向に添い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の住民からの差し入れや、新聞紙の持ち込みの協力を頂いている。地区合同の防災訓練に参加し、地域にホームの存在を知って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の主治医は基本往診となっている。突発的な事があれば、ご家族に連絡し病状説明を行う。また、異変があればすぐに連絡が出来る体制を築いている。	それぞれの利用者の主治医の先生と、常に連絡が取れる体制を整えています。受診も往診となっており、各利用者の対応においても細かく指示を頂き、連絡も迅速に適切な医療を受けられるよう、看護師との連携体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申送りや日ごろの生活の中での気付きや本人の訴え等医療に関することは、週一回の情報提供で連携をとっている。緊急時は看護師に相談し指示に従い、主治医連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはカンファレンスに参加している。特に担当医からの説明は家族の同意を得られた場合は、家族の不安を解消できるように共に説明を受ける。病院関係者とは共通会議で関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末ケアについて説明を行う。ホームで看取るとはどういうことかを看取り指針に従い説明を行っている。生活を送る中で、看取り時期になられた場合は、医師・看護婦・介護職とと共に本人らしく大切に支援を行っている。	施設として出来る事を理解して頂きながら、必要な都度、医師・家族・施設で話し合いを重ね、その人らしい終末期を迎えて頂ける支援に努めています。また、利用者と家族との繋がりを大切にされ、その時々に合わせて様々に工夫された取り組みをされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起きてからでは遅いので日々のケアの中で、ヒヤリハットの大切さを事故対策委員会で共有している。救急車対応の判断等は掲示していつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区合同の防災訓練には毎年参加している。自主防砂訓練は、経験回数が少ない職員を中心に日勤で夜間想定で行っている。独自で誘導方法・配車位置等わかるように掲示している。	立地環境から、災害対策意識は施設だけでなく地域全体としてとても高く、訓練や経験を通して常により良い方向へ体制を整えています。施設内においても、急な災害に備えて避難方法・連絡体制・備蓄等様々に工夫され取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の対応が不愉快にならないよう申し送り で情報の共有を行います。本人の性格やプライドに配慮し、理解しやすい優しい言葉を使用しています。自尊心が傷つき興奮された場合は、居室に誘導し不安や怒りを傾聴するようにしています。	常日頃から、利用者の尊厳に配慮しながら情報の共有や意識の共有に努め、さりげないケアや自己決定しやすい支援に取り組まれています。職員間で、お互いのケアを確認できるように体制を整えています。	現在研修の開催が難しため、研修スタイルを様々に工夫され取り組まれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の会話の中から、本人の考えや思いを導き出しています。自己決定ができるよう言葉を選び説明し、出来ることを促しながら、取り組んでいただいています。同意がない場合は、時間を明け再度説明し、本人らしく生活ができるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務内容があるが、利用者一人一人の考えは違うので、本人のペースを大切にしながら、残存機能を活かした支援を行っている。それぞれに対応できるよう画一的な事は避けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みや季節に合わせたものを選択している。身だしなみを整える時は、その人らしく、本人の要望をお聞きし対応している。本人の楽しみとしてマニキュアやヘアアレンジをするときもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理準備を本人の能力に合わせ負担にならないよう取り組んでいます。職員と共に茶碗洗いやお盆拭きにも参加していただいています。	利用者の出来る事は一緒に手伝って頂きながら、昼食は施設で作っているため、楽しく食事が出るよう雰囲気づくりを大切にされています。また、イベント食では地元のお店を利用するなど様々に工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態は毎日の申し送りで共有し、体重減少や摂取量が低下している利用者様へは、医療連携して栄養補助剤を提供しています。むせ込み対応はトロミ調合・食事形態の検討を行って対応しています。水分量は一日のトータル量をチェックしながらこまめに提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別対応で歯磨きの声掛けを行い、本人の能力に合わせ介助しています。残渣物の確認や口腔内のチェックをはじめ、義歯の調整や痛みのある時は、協力歯科へ連携を取り往診依頼をしています。夜間は義歯毎日消毒し清潔を保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら耳元での声掛けを実践しています。各自の排泄リズムを排泄チェック表をもとに支援しています。パットは本人の汚染・尿量を把握し種類を選択します。	排泄チェック表で、常に情報を共有しながら個々に沿った支援に取り組まれています。利用者の今の状態に合わせ、必要な時は家族の協力や理解を得ながら、その人らしくを大切にされた支援を職員全員で取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘者に対しては、排便リズムを把握し、主治医と相談しながら緩下剤を使用しています。食事量の把握や、レクの時間を活用し運動不足を解消しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としています。入浴剤を使用し世間話や回想法を中心にリラックスしていただけるよう働きかけています。体調不良や、入浴拒否が出た場合は、無理強いせず順番を変更しています。	利用者とゆったりと時間を共有できる為、とても大切な時間として個々に沿った支援を、心掛けています。利用者のその時々々の体調や気分を大切にしながら、安全に気持ちよく入浴を楽しんでもらうようアロマ等を取り入れ様々に工夫された、支援をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の生活リズムにあった休息時間を個々に設定しています。午前・午後には休息時間を決めて対応している。居室では空調調整を行い、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬用のお盆を用意し服薬マニュアルを貼付し、毎回マニュアルを読み上げながら内服していただいています。副作用や処方箋がいつでも見れるよう各ユニットに処方箋をまとめファイルをおいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニット内でできるレクリエーションや運動は行っている。また、本人の得意とする家事や趣味を中心に、楽しみがも手うように支援している。ホームでお出しするおやつ以外で食べたいものがある時は担当職員が買い物を代行して提供します。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で車でのドライブや遠出はできていないが、近隣の散歩は天気が良いときに取り組んでいる。	コロナ禍のため、例年のような支援はできませんが、利用者の体調やその時々々の気分・季節等を考慮しながら、自然と海が見える環境にある近所を散歩し、外の空気を感ぜてもらうなど、今出来る事を大切にしながら外出支援をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本貴重品・現金は事務所で管理しているが、本人から希望があれば、予算や金額を説明し、購入を代行している。今後現状が回復すれば、外出時お小遣いを持ち使えるよう支援して行きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎや、本人からの要望があれば施設の電話を利用して、家族や大切な人への電話はできるよう支援します。手紙を書くことは希望があれば、代筆等対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室は、今月のアロマと題し、毎月違った香りを楽しんでいただいています。また、月2の花遊びでは、利用者様に花をいただけていただいて、落ち着ける空間を提供しています。ホール環境はエアコンを中心に体感温度を重視しアシストルーバーで空調コントロールしています。季節にあった壁画にも利用者と共に取り組んでいます。	季節ごとの、壁面制作や生花などを楽しみながら、利用者が落ち着いて居心地よく過ごして頂けるよう、その時々のお気持ちや体調を考慮しながら、様々に工夫された共用空間づくりに努めています。また、感染予防対策には、出来る限りのケアに努め安全・安心に過ごして頂ける配慮をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際は、自席固定を行っていますが、催事やレクレーション時は、自分の好きなところに座れるように、また、テレビの前にソファを設置し好きな時に視聴できるようにして、利用者同士の雑談の場を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾ったり、ご自分が作った作品や馴染な物を置くことで、落ち着く環境を整えています。家具等は本人の身体上に合わせ、臨機応変に配置を変更し環境・危険リスク回避を行っています。	馴染みの物を持ち込んで頂いたり、利用者が居心地よく、安全・安心に過ごせるよう家族の方の協力を得ながら居室づくりに努めています。また、模様替えや体調を考慮し購入や撤去が必要な時は、家族に相談しながら利用者が居心地よく過ごして頂ける支援に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせ居室の入り口に目印をつけたり、文字が理解できる方へは新聞購読を提供しています。調理準備や簡単な家事は個々に参加できる環境を整えています。危険な場所へは、保護材等を使用し、安全に移動・生活できるよう工夫しています。		